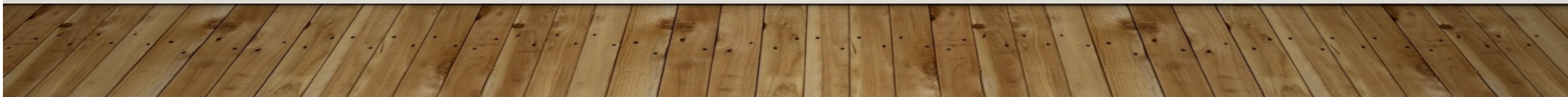


ぐんぐん組保護者会



本日の内容

- ぐんぐん組おともだち紹介（保護者の方からひとことずつ）
- クラスより（今年1年間の育ちの見通しや年間目標）
- 園長先生より
- ぐんぐん組のコーヒータイム
（児童表や緊急園児データカードの確認も行います）

2024年度 ぐんぐん組のなかまたち



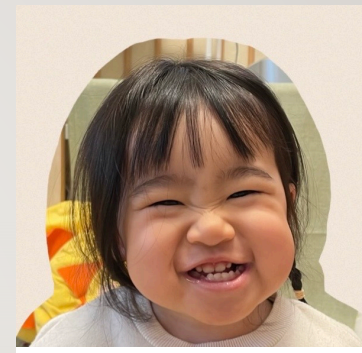
おじおはるきくん



にしうちしょうたく
ん



おやけりなちゃん



うちやまわかちゃん
ん



ほりかわりのちゃん
ん



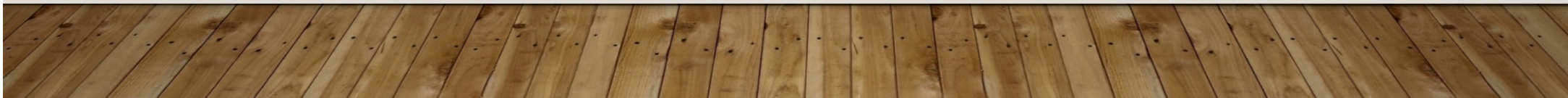
うちだなぎさちゃん
ん



うちだかなでくん



いしいはるちかく
ん



年間目標

- ①自分の思いや気持ちをたっぷり表現しながら、それを十分に受け止めてもらう中で、自分の気持ちに気付いていく。
- ②友だちとの関わりの中で、少しずつ相手の気持ちにも目を向けて、やりとりしてみようとする。友だち同士で気持ちが通い合う喜びを感じていく。
- ③一人ひとりに合った環境の中で、身の回りのことややってみたいことに意欲的に向き合って、自分の世界を広げていく。

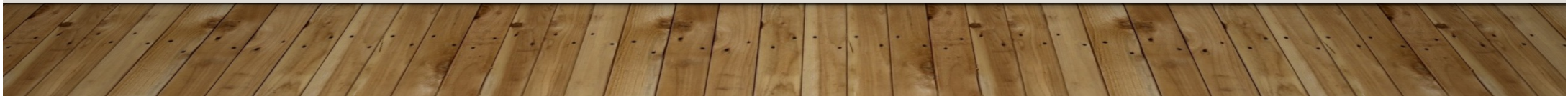
①自分の思いや気持ちをたっぷり表現しながら、それを十分に受け止めてもらう中で、自分の気持ちに気付いていく。

『自分の気持ちをたっぷり表現する』

- 自分の気持ちを思う存分表現するなかで・・・

⇒まだ言葉にならない感情を、「怒っているんだね」「今はこれがしたかったんだね」と大人に受け止めてもらったり、言葉に乗せてなぞってもらったりする

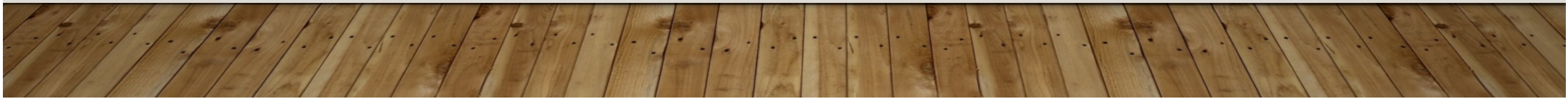
⇒「じぶん」と「他者」という存在をしっかりと確立し始め、その違いややりとりを体験していく大切な時期。



“わたしがつかってるのー！ぼくもほしいのー！”



そばで見ていた先生は、わかちゃんとはるきくんのお互いの気持ちを理解しつつ、じゃあ、どうやったら折り合いをつけていけるかなあ…というヒントを、見つけてくれたようです。

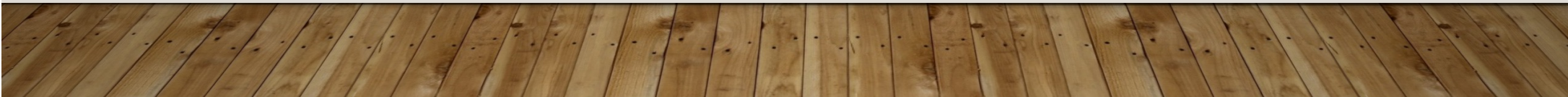


①自分の思いや気持ちをたっぷり表現しながら、それを十分に受け止めてもらう中で、自分の気持ちに気付いていく。

『十分に受け止めてもらう。自分の気持ちに気付く。』

⇒「たのしいね」「うれしいね」「いやだったね」「それがしたかったんだね」
...と、ありのままの気持ちをしっかりと受け止めてもらう。

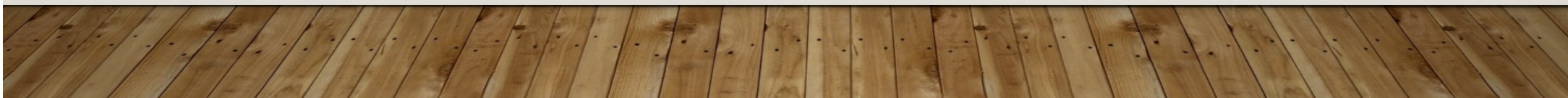
⇒「分かってもらえるんだ」という安心感や、「自分は大切にされているんだ」
という感覚の中で気持ちが満たされていく。
「自分はこういう気持ちなんだな」と気付いていく。



②友だちとの関わりの中で、少しずつ相手の気持ちにも目を向けて、やりとりしてみようとする。友だち同士で気持ちが通い合う喜びを感じていく。

『友だち同士。気持ちが通い合う喜び。』

友だち同士で「たのしいね」「うれしいね」を共有したがる子どもたちの姿



“悲しかったんだね、いいこいいこ”

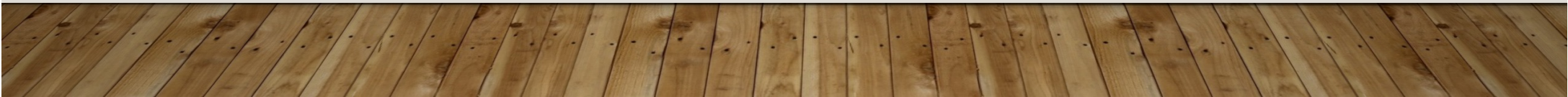


まだ言葉が伴っていない関わりも多いけれど、子ども同士でも、しっかりと気持ちを受け止めたり(受け止めてもらったり)、共感したり(してもらったり)・・・というやりとりが見られます。

②友だちとの関わりの中で、少しずつ相手の気持ちにも目を向けて、やりとりしてみようとする。友だち同士で気持ちが通い合う喜びを感じていく。

『自分の心が満たされる、相手はどうかな？と目を向けていく』

- お友だちに親切にしてもらったり、気持ちを通わせ合った嬉しい経験が積み重なって、次の関わりや関係を生んでいく。
- 受け止めてもらい、自分の気持ちがしっかりと満たされるからこそ、相手の気持ちに目を向けていくことができる。
⇒「自分」と「他者」との違いに気付き、じゃあ、どうしたら良いかな？と
(大人に支えてもらいながら) 体験していく時期。



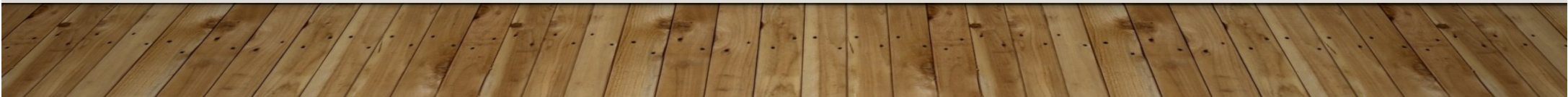
③一人ひとりに合った環境の中で、身の回りのことややってみたいことに意欲的に 向き合って、自分の世界を広げていく。

『一人ひとり違うこと。“みんなちがってみんないい”』

- まさに「じぶん」の世界を広げている真っ最中のぐんぐんさん。
興味を持つことややってみたいことは一人ひとり違います。
発達によっても違いがあります。

⇒同じクラスだからといって、皆がいつも同じ環境の中で同じ遊びを楽しむ、ということはありません。

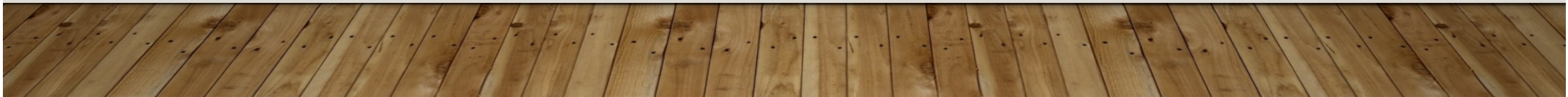
一人ひとりの子どもたちが生き生きと過ごすためには、それぞれの発達や関心に合った環境が必要だと考えています。



“ハイハイが楽しい時期。ちょっとした起伏を作ると、のぼってみたい！と、さっそく何往復もしてみます”



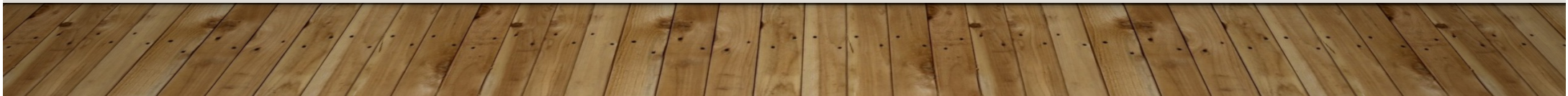
ハイハイの時期にはたっぷりハイハイを。それにちょっと「やってみたい！」の要素を混ぜて遊び環境を作ってみます。
そして、たくさん歩き回りたいお友だちは、この日、広場のある公園へ出かけました。



③一人ひとりに合った環境の中で、身の回りのことややってみたいことに意欲的に 向き合って、自分の世界を広げていく。

発達や興味関心に合わせた環境を作っていくこと

- ⇒一人ひとりの子どもが何をやりたがっているか、どんな世界を広げようとしているのか、よく読み取りながら、そこに寄り添った環境を作っていきたいと思っています。
- 子ども理解を深めながら、環境を用意していく。
そのために、大人も、試行錯誤です。



“「遊び」は「学び」”



子どもたちは、やってみたいことや興味のあることを探求しながら、失敗したり、考えたり、試行錯誤しながら、少しずつ、自分のものにしていきます。それは、「自分」の世界と向き合い、それを深めている時間、とも言えるかもしれません。